

第1次佐伯市総合計画前期基本計画
地域別振興計画の検証結果について

佐伯市総合計画策定委員会

平成23年10月

1 地域別振興計画の検証について

第1次佐伯市総合計画後期基本計画（平成25年度～平成29年度）を策定するにあたり、佐伯市総合計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置し、前期基本計画の検証を行った。前期基本計画は分野別計画と地域別振興計画の2つに分かれ、地域別振興計画の検証は、振興局長会議を経たものを策定委員会で審議、決定した。

2 検証方法について

まず、各振興局が「主要施策・事業」についての検証を行った。現時点までに実施した「主要施策・事業」を整理し、事業内容や実績を基に「主要施策・事業」の達成度を3段階（A：達成できる B：一部達成できる C：達成できない）で評価した。

続いて振興局長会議で各振興局毎の評価について議論し、検証結果の素案をまとめた。これを策定委員会で妥当であるか否か審議し、検証のまとめとした。

3 検証経過について

(1) 地域別振興計画検証についての説明及び各振興局への事前周知

平成23年2月16日（水）：第1回佐伯市総合計画策定委員会

(2) 調査票（自己評価）の作成依頼

平成23年5月23日（月）：振興局長会議

(3) 振興局長会議の開催

平成23年6月28日（火）13：30～17：30

(4) 第2回佐伯市総合計画策定委員会の開催

平成23年10月11日（火）13：30～17：20

1 上浦地域

○評価欄 1

(1) 自然環境の保全	ア 海岸の環境を整備し、やすらぎのある空間をつくります。		
	イ 荒廃しつつある林地の広葉樹林化を推進します。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	海岸清掃事業	各地区の海岸清掃を区民で実施することにより海岸の環境美化に努めた。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	地区の皆さんの協力で、各海岸の清掃を実施することにより、きれいな海岸を維持することができたが、林地の広葉樹林化については、林業後継者不足の問題等から事業の実施に至らなかった。	

◆特記事項

昭和 49 年に日豊海岸国定公園に指定されており、その中でも抜群の美しさを誇っている。

○評価欄 2

(2) 観光の振興	ア 豊後二見・瀬会海水浴場などの自然や文化資源を生かし、交流人口の増加を図ります。		
	イ 沿道や観光拠点周辺の修景（植栽等）やクリーンアップ事業の推進を図ります。		
	ウ 上浦の資源を活用した特産品の開発や料理の掘り起こしを図ります。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	荻町との交流事業	上浦町時代からの姉妹町である竹田市荻町の「ふるさと祭り」には上浦地区から出店し、豊後二見の「しめ縄張替え」には荻町から多くの人参加する等、今でも活発な交流が続いている。	地域振興・教育課
	観光パンフレットの作成	佐伯市観光協会上浦支部で、上浦地区の名所を紹介する「上浦の名所巡り」と題したパンフレットを作成した。	地域振興・教育課
	瀬会海岸出入口交差点改良事業	大型バスの乗り入れが可能となったことにより、今後、交流人口の増加が見込まれる。	観光課
	観光施設周辺の環境整備	観光施設周辺の植栽の剪定、伐採を実施し、環境整備を推進することができた。	上浦振興局
	特産品の開発や料理の掘り起こし	「すり身バーガー」「クロメギョーザ」「ごまだしチャンポン」等が新商品として開発され、人気を集めている。	観光課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	それぞれの事業を実施できたことにより、今後の交流人口の増加に期待が持てるため。	

○評価欄 3

(3)生活基盤の整備	ア 天候不良等による濁水をなくすよう良質な水資源の確保に努めます。		
	イ 下水道事業の推進により、衛生的な生活環境整備に努めます。		
	ウ 緊急自動車の通れない狭小道路の解消に努めます。		
	エ 緑化推進、沿道美化による、道路環境の向上に努めます。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	上水道整備事業	浪太地区への給水は、その半分を浅海井地区にある配水池から供給していたが、平成 22 年度に晞干地区から本管を直結したことにより、より安定的な水の供給が可能になった。	上下水道部
	下水道整備事業	特別環境保全公共下水道整備事業、漁業集落排水事業漁港漁村集落排水事業(浪太地区)により、上浦地区内のほぼ 99%の下水道事業が完了した。	上下水道部
	津井地下線道路拡幅事業	津井地下線の拡幅により、緊急時の車両通行が可能になった。	建設課
	環境美化活動の推進	「日本一美しいまち上浦」をキャッチフレーズに、パワーアップ事業や、地区住民による清掃活動、またボランティア、老人クラブによる海岸や地区内の緑化推進、沿道美化に努めた。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	それぞれの事業を実施できたことにより、地区住民の生活環境が整備され、より安心して生活ができる基盤が整ったため。	

2 弥生地域

○評価欄 1

(1) 生活環境整備	ア 下水道施設等の整備、普及を推進します。		
	イ 地域と地域を結ぶ生活連絡道として、市道・林道等の道路網拡充や既存道などの整備を推進します。		
実施した事業	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
	国道10号歩道補修	23箇所の補修要望し、19箇所完了。	国交省
	国道10号歩道拡幅等	歩道の拡幅及び設置を4箇所要望中。	国交省
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	下水道施設については、旧弥生町時代に上野、切畑地区を整備したが、その後、明治地区についての進捗はない。道路整備については、国道を中心に国交省に要望活動を行い、ある程度の進捗を見ている。	

◆特記事項

下水道については、明治地区が残っているが、床木方面と尺間方面で点在しているので、集落排水で管をつなぐのは効率が悪い。合併浄化槽の普及を目指している。

○評価欄 2

(2) 自然環境整備	ア 水害対策として河川整備や関係行政機関への要望活動を促進します。		
	イ 河床上昇の原因のひとつと言われる山林の荒廃対策として、植栽活動などの山林愛護を推進します。		
実施した事業	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
	上小倉地区排水対策	H23年度上小倉地区釜場設置工事着手。	国交省
	緑の募金事業	5箇所にサザンカ苗他148本植栽実施。	林業課
	農村振興総合整備事業	大分県に働きかけ、県営農村振興総合整備事業(H21~26年度)で井崎地区について排水路の開設を行うこととなった。集落防災安全施設L=305m完了	大分県
	山梨子地区排水対策	内水対策として、現在の移動ポンプに代え、固定の排水機場の整備を継続して国交省に要望中。	国交省
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	水害対策としての河川整備等については、井崎地区及び上小倉地区で整備が進行するとともに、山梨子地区でも整備要望を展開中である。山林保全活動については、一部植栽活動を行ったが、今後の一層の展開の余地が大きい。	

○評価欄 3

(3) 居住者増加対策	ア 周辺部人口増加対策のひとつとして、他市町村からの流入を主目的に、空き家・空き地の紹介事業を検討するとともに、旧昭和中学校跡地など地域の市有財産の有効活用に取り組みます。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	-	-	-
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	C:達成できない	旧昭和中学校跡地には、一部で給食センターが建設されたが、まだかなりの土地が残っており、その活用策は進展していない。空き家・空き地の紹介事業については、めばしい活動はできていない状況である。	

◆特記事項

現在、旧昭和中学校跡地は、昭和中学校の野球部が利用している。

○評価欄 4

(4) 産業振興	ア 就業率の低い第1次産業の振興施策として、農林業における集落営農組織化を推進するとともに「グリーンツーリズム」による新たな経営方法及び後継者育成の研究を行います。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	-	-	-
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	グリーンツーリズムについては、現在3軒が取組を行っているが、その後の拡大には至っていない。集落営農の組織化については、組織数の増加という面では厳しい状況である。しかし、既存の法人「王冠」については、かなりの実績と成果を収めており、市内を代表する組織になっている。組織の拡充という面からは、評価できる取組である。	

◆特記事項

具体的な事業名の記載とはならないが、集落営農組織「王冠」の活動状況は、特筆すべき点である。

○評価欄 5

(5) コミュニティの活動促進	ア 地区住民相互の協力体制を強化して、自治会を中心とした文化活動やスポーツイベント、清掃活動など、住民間におけるふれあいの機会の創出を促進し、元気で活力ある地域づくりを推進します。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	弥生公民館祭り	パワーアップ事業で弥生文化会館で2日間実施	地域振興・教育課
	体協弥生支部事業	体育協会弥生支部事業として28事業及び市全体事業として12事業が行われている(22年度実績)	地域振興・教育課

	森と清流を守る会清掃活動	弥生地域の独自活動として、森と清流を守る会による清掃活動を年2回行っている。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	公民館祭り、各種体育大会等は例年盛会裡に行われており、地域のふれあいの場として一定の成果を挙げていると思われる。	

【説明特記事項】

(1) コスモス祭りが河川改修の関係からできなくなった。チャリティーショーも独自に盛大にやっていたが合併前後からやっていない。なんとか、盛り上げていきたい。

3 本匠地域

○評価欄 1

(1) 自然環境の保全	ア 清流の保全や防災対策等のために、継続的な広葉樹の植栽を実施します。		
	イ 各種団体やグループ、地域との連携による美化活動を継続します。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	広葉樹の植栽	佐伯市のマリンロータリークラブとともに、「番匠川源流の里」保全植樹会と銘打って、平成12年から毎年100名程が参加をして、サクラ、モミジ、ケヤキ等の広葉樹を毎年200本程植樹している。又、林家においても造林の際、針葉樹から広葉樹への樹種転換も行われるようになっている。	地域振興・教育課
	道路・河川敷の清掃活動	①毎年8月に実施される道路清掃作業は全地域で行われており定着している。又、903クリーンアップ大作戦も全市的な取り組みの中、本地域でも毎回700名を超す参加がある。 ②青年団による夏休み中の遊泳客へのゴミ持ち帰りの広報活動及びボランティア団体による河川内、道路のゴミ拾い(年5回程実施・延べ100名)で河川、道路の美化が保たれている。	地域振興・教育課 市民サービス課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	植樹会等で広葉樹の植栽は既に2千本を超えている。また、山林所有者も杉を皆伐後は人家の周りを中心に広葉樹の植林に転換している。美化活動の取り組みについても、全地域で一斉に実施されるなど、環境美化に対する意識が高まってゴミは着実に減少している。	

○評価欄 2

(2) 観光の振興	ア 九州屈指の清流を中心とした自然体験型の交流人口の増加を図ります。		
	イ 土地柄を活かした食や観光グッズの開発により、魅力のある観光地をめざします。		
	ウ 特産品の知名度を高め、観光資源として売り出します。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	水辺の楽校推進事業	水辺の楽校で一般遊泳客を対象に、パワーアップ実行委員会やホタッピークラブによるカヌー体験教室を毎年7月と8月に実施している。また、番匠川流域ネットワークに夏場の水辺の楽校の管理を依頼しており、子供や教員の夏休みの研修でカヌー体験を行っている。	地域振興・教育課
	本匠のイメージキャラホタッピーによる普及活動とイベント開催による交流人口の増加を図る	ホタッピー(ホタルの着ぐるみ)の各種イベント(新茶まつり、ホタルまつり、春まつり等)への参加による本匠のPRを行っている。またホタルまつりは毎年6月最初の土曜日に地元主催でステージイベントなどを実施している。また、ホタルの学校は6月上旬から中旬の土日にホタルの授業や見学を行っている。水車も夏場以外の集客のためイベントを実施している。	地域振興・教育課
	特産品の販売拡大	本匠地域の地域振興や特産品開発、販路拡大を目的として、以前実施していた特産品の宅配事業であるふるさと本匠の会をホタッピー便で再起を図った。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーの利用の促進と清流番匠川流域での遊泳客等は増加してきたが、イベント以外でのカヌーの利用はまだ少ない。 ・ホタル観賞シーズンに限らない通年の普及活動を通してホタッピーの知名度が上った。また、ホタルまつりには毎年3千人以上が訪れ、ホタルの学校や見学の人も駐車場や簡易トイレの設置等により、交流人口は増加傾向にある。水車周辺も夏場は川遊び客でにぎあうもののオールシーズンでは集客がまだまだの状況である。 ・各種イベントにおいて開発した特産品を販売し一定の収益が得られたが、特産品の本匠出身者への宅配事業は事業費が10万円未満と低調であった。 	

○評価欄 3

(3) 農林業の振興	ア 伝統と希少価値のある地域資源の高付加価値化を図ります。		
	イ 農地の流動化、農業経営の合理化を促進し、農作業の共同化による省力化、効率化を推進します。		
	ウ 林業においては、公益的機能の充実と特用林産物の振興など、総合的な対策に取り組みます。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	新茶まつり	江戸時代から引き継がれている因尾茶を守り産地の維持とお茶の経営を守るため販売の促進として新茶まつりを行った。来場者は600人以上と販路の拡大に努力している。	地域振興・教育課 農業振興課
	農地の流動化と農作業の共同化	農地の流動化や農作業の共同化に対処するためのものとして、農業法人(有)きらりが位置づけられているが、本地域は農地が狭いため農地の流動化は少ない。また農作業の共同化については(有)きらりがその受け皿として農作業の受諾を行っている。	地域振興・教育課
	林業関係各種補助事業	椎茸生産基盤高度化緊急対策事業、低コスト簡易作業路緊急整備事業、有害鳥獣被害防止対策事業等補助事業の実施。また人工ほだ場は市が設置し生産者が利用しているが恒に満杯状態である。	林業課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	因尾茶については、新茶まつりの継続により徐々に販路拡大へとつながっているもののまだまだ販売に苦慮している。また農作業も個人投資で大きな負担をし対応しているため(有)きらりのセアがなかなか広がらない。中でも椎茸栽培は価格の安定とともに施設やその他補助金により生産も意欲も順調である。	

○評価欄 4

(4) 高齢者活動の推進	ア 地域の発展と高齢者の生きがいづくりを進めるため、個人の体力・能力に応じた仕事の創出を図ります。		
	イ 文化・スポーツ活動や生涯学習等を連携して、だれもが充実した老後を過ごせるよう、多角的な施策を実施します。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	さいきの茶の間運営事業	「本匠お茶の間サロン」は、平成22年7月開設。「囲碁クラブ」や「カラオケ」「卓球クラブ」は毎週定期的に活動。盆踊りの時期には本匠の地踊りを練習した。そのほか「健康教室」や「男の料理教室」を開いたり、健康の元は笑いからと題しての落語を聞く会には、28名の参加があった。寒い時期には参加者が少ない日もあったが、平成22年度の開設日数は51日、延べ460人が利用した。	高齢者福祉課

	文化・スポーツ、生きがい活動の推進	市老連本匠支部（会員数510名）及び公民館学級（65歳以上男女165名）では、会員等の見聞を広げるための研修やゲートボール、グランドゴルフ大会への参加、更には、健康教室を主宰するなど健康保持・増進のための事業に取り組んでいる。又、地区の神社、道路の清掃ボランティア、学校行事への参加等世代間交流にも積極的に参加している。このように管内の高齢者の大部分は老人クラブの会員又は公民館学級の学級生である。	高齢者福祉課 地域振興・教育課
	仕事の創出並びに「作る喜び」と生きがいづくり	管内には25名のシルバー人材センターへの登録者がおり増加傾向にある。振興局庁舎の清掃・警備業務や個人宅の清掃作業の請負などに就いている。また、管内の農林産物の加工施設（6名）や野菜等のアンテナショップ出荷組合グリ（70名）では70歳を超えた皆様が現役で農林産物の加工・栽培・販売に取り組んでいる。作ったものが現金化される楽しみと同時に生きがいにもなっている。	地域振興・教育課
	もくもく館(木工教室)の整備	老朽化したもくもく館を観光施設のある小半に新築した。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	高齢者の生きがいづくり及び健康づくりは老人クラブ活動、公民館学級等の活動の中で達成できた。又、高齢者の仕事の創出については、不十分ながらもシルバー人材センターへの業務委託をはじめ農林産物の加工販売に多くのお年寄りの皆様が係わって現金収入を得ており、楽しみや生きがいを感じている。また、もくもく館の新築により教室生も増えた。高齢者の皆様がいきいきとものづくりに取り組むことが本地域の活力の源となっている。	

○評価欄5

(5) 消防・防災活動の推進	ア 機能的な消防・防災活動を行うため、消防団の分団統合等、組織の再編を図ります。		
	イ 昼間の消防団員不足を補うため、地区内住民による自主防災組織の設立をめざします。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	消防団の分団統合等、組織の再編	平成21年度から12分団を5分団・12部に統合・再編した。	市民サービス課
	自主防災組織の設立	昼間の消防団員の不足を補うため、自主防災組織の設立を呼び掛けたが、平成20年度に1地区のみが組織を立ち上げた。	市民サービス課

この項目に対する評価	評価	評価理由
	B：一部達成できる	消防団の統合・再編は達成できたが、自主防災組織の設立については自治委員会等で呼びかけをしたものの1地区のみに留まった。今後は、災害時における要援護者支援対策と合わせて、粘り強く訴えていきたい。

4 宇目地域

○評価欄1

(1) 生活基盤の整備	ア 豊かな森林や清流などの自然環境の良さを活かし、快適で安心して暮らせる地域づくりを進めます。		
	イ 地域の幹線及び生活道路については、交通条件の改善を図り、住民が安全で快適に生活できるよう計画的な整備と維持・管理の充実に努めます。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	柳瀬地区 景観整備事業	農繁期における棚田の保全と景観整備を兼ねて、棚田にチューリップを約45,000本咲かせることにより、3月中旬から4月中旬にかけて鑑賞に訪れる観光交流人口は約1,000人で過疎化した地域の活性化が図られ、宇目地域の観光交流人口の増加に寄与できた。ボランティア（球根の植付け100人・掘起し80人） 鑑賞客数（チューリップ祭を含む）1,000人	地域振興・教育課
	柳瀬地区 オーナー田事業	棚田の保全と景観整備を兼ねて、都市住民との交流拠点の場として市内外のオーナー（家族を含む）と地区住民が農業体験を通じて交流することにより、地域の活性化を図ることができた。平成22年度参加者 26家族（約100名）	農政課
	北川ダム湖 上下流域交流事業	北川ダム湖環境整備推進協議会事業の一環として、上下流域の児童による水生生物の観察を通じて、上下流域の住民が清流北川河川環境保護の啓発と交流が図られた。 平成22年度参加者 北川町児童16名・宇目児童11名	地域振興・教育課
	さとやま公園整備事業	地域住民が森林から享受する保健・文化かん養機能の増進を図るとともに、地域住民や都市住民との交流活動の場として、活力あるまちづくりを推進することを目的としているが、植栽した広葉樹等の育成のためと景観整備のため、下刈り作業を地域住民が自らがその業務を担うことにより、初期の目的を達成することができた。千束さとやま公園 9ha・小野市さとやま公園 11ha	地域振興・教育課
	市道改良事業	補助事業 南部線・檜の木河尻線・上津小野線・市園芋の瀬線 市単独事業 西山線（H22年度完了） 電源立地交付金事業 水ヶ谷線（継続中）	建設課

	コミュニティ交通整備事業	交通不便地域の解消を目的として特に高齢者等の生活交通手段を確保するため平成22年度から運行を実施したが、利用率の低いデマンド（予約運行）については、運行曜日の撤廃（土日を除く）をするなど改善を図った結果、僅かではあるが利用者が増加した。平成22年度利用者数 定期定路線（1,496人）デマンド（563人）	企画課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B：一部達成できる	ア)については、柳瀬地区を中心にチューリップの植栽、オーナー田事業を行い、景観保全と都市住民との交流を行うことで、少子高齢化により過疎化した地域の活性化が図れた。また、イ)のコミュニティーバスについては、定期定路線型の利用率を向上するため、早急な改善が必要と思われるため。	

○評価欄2

(2) 地域産業の振興	ア 地域を支える農林業経営の安定のため、有害鳥獣対策、農林業の合理化、後継者（組織等含む）の育成など、総合的対策を行います。		
	イ 収益性の高い作物への転換を図るとともに、果樹や花き等のブランド化の推進、集出荷体制の整備、観光農園への取組などを促進します。		
	ウ 消費者ニーズの多様化に対応すべく、商工会との連携を図りながら、身近に利用しやすい買い物環境を提供できるよう地域商業の振興を図ります。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	有害鳥獣捕獲事業及びシカ個体数調整捕獲事業	◎有害鳥獣捕獲事業の内訳 ●イノシシ311頭 ●サル14頭 ◎シカ個体数調整捕獲事業 ●シカ1,842頭 ※報奨金はイノシシ、シカ1頭6,000円サルは1頭30,000円	林業課
	有害鳥獣被害防止対策事業	◎イノシシ電気柵(2件～1,000m) ◎イノシシ鉄線柵(1件～1,000m) ◎シカネット(杭木)13件～2,540m (立木)2件～250m	林業課
	作業道舗装用生コン支給事業	山林機能維持と林道経営基盤の確立を図るため、山林作業道幅員おおむね3m以上の作業道の舗装に要する生コンクリートを支給する事業で、22年度の実績は、25路線(生コン量は437.5m ³ ・金額は7,488,000円)	林業課
	林道開設に係る市単独補助事業	◎作業道開設事業 2件～385m ◎作業道整備事業 6件～2,068m	林業課
	しいたけ種駒植菌補助事業	しいたけ種駒の植菌に対し、1万駒を越えた1駒当たり1円を助成する事業で、22年度実績は駒数で5,709,000駒	林業課
	低コスト簡易作業路緊急整備事業	椎茸原木の搬出に必要な簡易作業路の開設に対し、500円/mを定額助成する事業で、22年度実績は、13件～2,550m(補助額1,275,000円)	林業課

	農産物生産量等	◎宇目特産品 H22 年度分 商品名 生産量 栽培面積(駒数) 組合 員数 ●椎茸 22,391kg 5,709,000 駒 96 戸 ●ほおずき 188,000 本 450a 21 戸 ●なす 132,232kg 161a 19 戸 ●ストピー 3,019,600 本 123 a 5 戸 ●ぶどう 1,500 kg 93a 5 戸 ●宇目茶 1,211kg 250a 13 戸	農政課・林業課
	宇目宅配事業	商工会が受託し、会員数 320 人で宅配延べ人数は 13,702 人	商工振興課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	ア) については、有害鳥獣は、一時期に比べかなり個体数が減っており、成果が出ているものと思われる。また、農産物等の特産品については、個々の生産部会で頑張っているが、高齢化が進んでおり、後継者等の問題が深刻化しているため。	

◆特記事項

産業振興に対して市の関わりが薄い。各種団体等の把握などが必要。

○評価欄 3

(3) 教育・文化・スポーツの推進	ア 個性を尊重した人間性豊かな子どもの育成に努め、時代の変化に対応できる教育環境づくりを推進します。また、青少年の自立心を養い、創造性を伸ばすために、青少年の健全育成活動の展開にも努めます。		
	イ 公民館等の生涯学習拠点としての機能を重視し、これらを活用した仕組みづくりに努め、学習環境・学習機会の充実を進めます。		
	ウ 文化については、施設の有効活用を図り活動への関心を高め、住民の自主的な活動を支援し、さまざまな活動の機会や発表できる場の提供に努めます。		
	エ スポーツ活動に対する多様なニーズにこたえ、生涯を通じて、だれもがいつでも気軽に参加できるよう活動の普及・振興に努めます。		
実施した事業	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
	うめっ子わくわく育成会議 (宇目校区ネットワーク会議)	宇目緑豊小・中学校へ地域の人材を学校行事・教科学習・環境整備の支援として年 20 事業ほどに派遣し、学校教育活動の充実・地域住民の生きがいがづくり等を図った。	地域振興・教育課
	宇目地域子ども安心安全見守り隊活動	宇目地域住民 50 名が見守り隊隊員に登録。小・中学生の登下校時の見守り活動を実施。小・中学校の登校日すべて、年間 200 日以上活動している。	地域振興・教育課

公民館事業	高齢者を対象とした講演会や視察研修など「生きがづくり」をコンセプトに高齢者教室を年間5回開催。青少年を対象にもものづくりや自然体験、ボランティア活動を中心としたグリーンクラブを年間6回開催。ものづくりを通して親子のふれあいの場を提供する親子わくわく体験教室を年4回実施している。	地域振興・教育課
文化協会への支援	宇目地域における芸術文化の振興の核となる宇目文化協会による芸術文化祭と宇目文化協会加盟の個々の団体の自主的な発表会を隔年で実施しており、企画立案、具体的活動に積極的な支援を実施。他地域に類を見ない独創的で自主的な活動を展開している。	地域振興・教育課
伝統芸能保存団体への支援	佐伯市の無形文化財に指定されている伝統芸能の保存団体が宇目地域内に12団体あり、その保存継承活動に対し補助しており、その団体の多くが出演（奉納）する宇目の二大祭典（椿原祭典・八匹原祭典）を華やかにし、毎年宇目内外から多くの観光客が訪れ、宇目地域の活性化につながっている。	地域振興・教育課
文化スポーツ等鑑賞事業	「クラシックアンサンブル」「クラシックギター」など演奏会の開催、大分市で行われる芸術性の高い舞台芸術への鑑賞などを年間6回を実施。山村僻地地域に位置する宇目地域における文化芸術への意識の高揚を図っている。	地域振興・教育課
宇目スポーツ祭	囲碁ボール等の軽スポーツやバトミントンなど、少人数で参加できるスポーツ7種目を大字（地区）対抗により開催し、広く地域住民の参加を呼び掛け、毎年、延300名の地域住民が参加している。	体育協会 宇目支部
各種協会・各地区主体事業の支援	グラウンドゴルフ・ミニバレー・ソフトバレー・軟式野球・ゲートボール協会それぞれが独自大会の実施支援。各地区のグラウンドゴルフ大会の実施支援。	体育協会 宇目支部
宇目の里健康マラソン	10K・5k・2k・親子・ウォーキング等の種目を設定した健康マラソンには毎年約700名の参加者が、美しい澄んだ空気を感じながら宇目の里を自分のペースで走りぬき気持ちのいい汗を流している。	体育協会 宇目支部
この項目に対する評価	評価	評価理由
	A:達成できる	それぞれの内容、対象者、目的などをしっかりと踏まえた上で、事業の立案及び実施をしており、対象者の理解も十分に得られているため。

○評価欄 4

(4) 保健・福祉の整備	ア 子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、元気な子どもの声がこだまする地域づくりをめざします。		
	イ 生き活きとした社会を築くために、人にやさしい地域づくりを進め、そのための各種福祉制度などの啓発・普及に努めます。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	認定こども園開設事業	管内に幼稚園がないため、平成 22 年度から千束保育所、小野市保育所の 2 園で対象児の受入れのため開設した。	子育て支援課
	放課後児童クラブ運営事業	児童の健全育成を図るため、宇目地区公民館とふれあいセンターの 2 ヶ所で運営している。	子育て支援課
	地域支援員設置事業	管内に高齢化率 50%を超過集落が 12 地区あり、その集落機能の維持、相談等にあたるため平成 21 年度から「ゆうゆうサポーター」を 2 名配置し地区の巡回訪問を実施している。	企画課
	さいきの茶の間運営事業	地域の高齢者等を対象に地域での生活の助長、社会的孤立間の解消、介護予防等を図るため、「お茶の間のいきいき」を平成 23 年 4 月 16 日に上仲江地区に開設した。	高齢者福祉課
	各種健診事業、健康教室の開催	地域住民の健康増進のため、各種健診事業、健康教室を開設した。平成 22 年度実績としては、特定健診（7 会場、813 人）・がん健診（25 会場、2,166 人）・健康相談（62 回、709 人）・その他教室の開催（47 回、618 人）	健康増進課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B：一部達成できる	子育て事業関係については、社会教育部門とあわせてかなり達成できている。地域福祉関係では今後の充実が必要である。各種健康づくり事業については、従来どおりに実施されているため。	

5 直川地域

○評価欄 1

◆評価欄 1

(1) 農 林産業の 振興	ア 有害鳥獣対策・農林産業の合理化・後継者育成等、総合的な対策を行い、農地や林地の荒廃を抑制します。		
	イ 農林産物直売所（まるごと市場）等を活かして、地産地消運動を通じた農業生産の向上と魅力ある特産品の開発を行います。		
実施した 事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	有害鳥獣駆除事業	捕獲数 イノシシ:94頭 シカ:468頭 サル:4頭	林業課
	有害鳥獣侵入防止柵設置事業	イノシシ電気柵設置:2,500m 鹿ネット設置:1,260m	林業課
	作業道等開設、舗装	作業道等開設2,970m コンクリート舗装:188m	林業課
	地産地消運動を通じた農業生産の向上	野菜生産講習会を2回、即売会を1回開催	地域振興・教育課
この項目 に対する評 価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	有害鳥獣駆除は懸命に実施されているが、まだまだ鹿の個体数は多く昼間でも人里で目撃され被害も減っていない。侵入防止柵や作業道整備にいたっては予算の枠が少なく、申請者が抽選により実施できるか否かが決まったり、予算がなくなれば打ち切られる状況であり、まだまだ整備が進んでいない。	

○評価欄 2

(2) 観 光の振興	ア かぶとむしに特化したむらづくりを行い、交流人口の拡大に努めます。		
	イ 直川の資源を活用した独自性のある特産品や料理等の開発・掘り起しを行います。		
実施した 事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	かぶとむしまつりの開催	毎年7月開催:約1,000人来場	地域振興・教育課
	かぶとむし養殖事業	年間約6,000匹	地域振興・教育課
	駆除した猪・鹿料理の開発	猪・鹿料理の試食会の開催 3回	地域振興・教育課
この項目 に対する評 価	評価	評価理由	
	A:達成できる	「かぶとむしまつり」の開催にあわせて「ふれあい館」をオープンしたことやメディアを通じたPRが功を奏した。「ふれあい館」の開館期間も計画より1ヶ月間延長し入場者も増加している。「かぶとむしのむら」としてのイメージが定着しつつある。猪・鹿料理は、大分市内のホテルでも試食を行い一定の評価をもらった。課題は捕獲した個体の解体施設の整備が必要である。	

○評価欄3

(3) 地域づくりの推進	ア 地域のつながりを強化して、子どもから大人までが安心して安全に暮らせる快適な地域づくりに努めます。		
	イ 防災機能を強化し、異常気象などによる災害に強い地域づくりに努めます。		
	ウ 福祉を推進し、だれもが健康で、心ふれあう地域づくりに努めます。		
	エ 地域に根ざした教育の創造と豊かな文化を育む地域づくりに努めます。		
	オ 地域づくりを担う中核的な地域づくりグループや地域リーダーの育成を行います。		
実施した事業	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
	子どもを犯罪から守る抑止力となる地域内パトロールを行う「なおかわまるごと安全安心パトロール隊」の積極的な活動により、子供から大人までが安心して安全に暮らせる快適な地域づくりが推進されている。	構成団体数 26 団体 活動実績 (例年) 1 定例パトロール (6 箇所) 毎月 1 日、15 日を原則に、幼稚園生、小学生、中学生の登下校の見守り 2 臨時パトロール 8 月開催の直川盆踊り大会のパトロール	市民サービス課
	佐伯市直川消防団と協働して、地域内で発生する火災被害の防止及び軽減を図るため設置された「佐伯市直川消防団応援隊」の積極的な活動により、災害に強い地域づくりが推進されている。	平成 21 年 1 月 1 日結成 隊員数 141 名 (平成 23 年 4 月 1 日現在)	市民サービス課
	配食サービス事業	年間 50 回 (毎週土曜日) ・クリスマス配食 99 食	地区社協
	茶園の管理・運営事業	茶園管理作業 (剪定等) 8 回 ・お茶配布 (福祉施設慰問等) 2 回	地区社協
	福祉ボランティア事業	児童クラブ事業への参加協力 (8 回) ・各団体事業への参加 (15 回)	地区社協
	ふるさと盆踊り大会の開催	毎年 8 月 15 日に開催 : 約 1,200 人来場	地域振興・教育課
	文化協会発表会	毎年 11 月中旬に開催 : 約 300 人来場	地域振興・教育課
	行政に頼らない (頼りすぎない)、まち (地域) づくり事業	村おこし実践先進地での研修 まちづくり検討委員会の開催 「やねだん館長」のまちづくり講演会の開催 : 117 人 地域おこし支援事業の計画 11 件	地域振興・教育課

この項目 に対する評 価	評価	評価理由
	A:達成できる	安全安心パトロール隊や消防団応援隊の積極的な活動により、安全な地域づくりが進んでいるが、消防署（分署）から遠い地域であるため緊急自動車の到着が遅くなるのが課題である。。ふるさと盆踊り、文化協会発表会等は、例年の行事であるが、年々担い手の高齢化や予算の縮減などの逆風の中、関係者や地域の人達が協力し合い継続できたことは評価できる。また、地域づくり支援事業計画書は、地域住民が地域おこしの重要性を認識し自らが計画したこと、また11件が直川地域全域に亘っていることを考慮すれば1年目としては評価できる。

○評価欄4

(4) 自然環境の保全	ア 再造林放棄地や荒廃しつつある林地を整備するとともに、里山には広葉樹なども植林する活動等を行います。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	治山事業の指定促進	県治山事業の指定及び事業実施：4か所	地域振興・教育課
	里山の景観づくり	8地域に桜など緑化木を800本植栽し景観づくりをおこなった。	地域振興・教育課
この項目 に対する評 価	評価	評価理由	
	B：一部達成できる	荒廃しつつある山林が多く、植林の推進や治山構造物の設置が必要である。また里山は植栽だけでなく既存の対象地域を選定し利用方法を研究する必要がある。	

6 鶴見地域

○評価欄 1

(1) 水産業の推進	ア 藻場の造成を推進します。		
	イ 魚礁の設置を図ります。		
	ウ 放流事業を行います。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	漁村再生交付金事業佐伯東部地区	増殖場 125,029千円(効果調査含)「米水津分含」	水産課
	漁村再生交付金事業鶴見地区	アワビ種苗放流59,000個 5,174千円	水産課
	水産業単独増殖場事業	有明浦・丹賀浦地区 3,999千円	水産課
	水産物種苗放流事業	クルマエビ 733,600尾 3,266千円	水産課
	水産物種苗放流事業単独事業分	トラフグ・ヒラメ・イサキ(45,000尾)クロアワビ(44,200個)・アサリ940kg	水産課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	毎年予定通りの事業を実施しており、水揚げが期待できる。今後も、計画的に実施を要望する。	

○評価欄 2

(2) 道路網の推進	ア 新二又トンネルの建設を推進します。		
	イ 県道梶寄浦佐伯線の改良を要望します。		
	ウ 番匠川河口橋の早期着工を要望します。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	二又トンネルの建設	H21年度より用地交渉中で、H24年度事業実施を図る。	建設課
	県道梶寄浦佐伯線の改良工事	道路の拡幅・防災防除・維持舗装等単年度毎には実施を行っているが、道路の交通量の多い吹浦(大河原地区)、有明浦(桑の浦地区)間において未改良の為に、危険が生じているので、早期の改良を要望していく。	建設課
	番匠川河口橋の早期着工	鶴見地区交流ふれあい道づくり推進期成会により、大分県議会議員・大分県知事に要望中であるが、現状において、早期着工までとは結びつかない状況である。今後とも、要望活動を重ね、一日も早い着工を推進していく。	建設課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	二又トンネル工事においては、約85%の用地交渉が成立し、また、県道梶寄浦～佐伯線においては、部分的な改良工事の実施がされた。	

○評価欄 3

(3) 福祉の推進	ア 高齢者、障がい者が「おたっしや、元気」に暮らせる地域づくりを推進します。		
	イ 楽しく、自主的に参加できるボランティア活動を推進します。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	さいきの茶の間運営事業	すずめの学校を平成22年7月に開設。民謡や手芸等11のサークルから好きな活動に参加できる。	高齢者福祉課
	ふれあいサロン	高齢者の生き甲斐づくり活動や健康づくりを11カ所で実施。	高齢者福祉課
	鶴見きれいな街づくり事業	ボランティア支援センター「鶴亀屋」による樹木の剪定や雑草の草刈り、県道及び河川の空き缶拾いや草刈り清掃を実施。	地域振興教育課
	鶴見花づくりボランティア	地区住民が地区浦々に四季折々の花づくりを実施。	地域振興教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	高齢者の生き甲斐対策や地区コミュニティが醸成されつつある。	

○評価欄 4

(4) 情報・通信の整備	ア 緊急時のための防災無線を柱にした防災システムを推進します。		
実施した事業	事業名（事業内容）	事業量・実績	担当課
	防災情報システム整備事業	平成22年度に度屋外拡声子局31カ所設置	情報推進課
	ICT 交付金事業	平成22年度に鶴見基地局から梶寄まで伝送路新設20.69Km 下梶寄にNTT ドコモ基地局設置	情報推進課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	災害時の情報伝達手段としての防災スピーカーやJ-アラートによる住民周知機能が図られる。	

7 米水津地域

○評価欄 1

(1) 産業の振興と充実	ア 水産業の更なる発展をめざし、販路の拡大や米水津ブランドの宣伝に努めます。(水産業には、養殖業及び水産加工業も含まれます。)		
	イ 柑橘栽培を主体とする農業は、就業者の多くが高齢者や女性であり、新規作物の導入や特産品の開発など軽作業、高収益を目指した各種支援を行います。		
	ウ 地域観光資源の開発と情報発信を行い、入り込み客の増加や地域産業と連携した発展を図ります。		
実施した事業	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
	みかん園新品種更新対策事業	消費者のニーズに合った柑橘栽培を行うため新品種更新対策事業として苗木購入者に補助を行っている。 22年度 米水津管内 9件 苗木134本 補助額 34,864円	農政課
	間越来だんせへ市	地区で活性化のための取り組みを行ってきた。平成15年5月より始めた朝市に今では多くの観光客がおとずれており、地区の活性化におおきな影響を与えている。○毎月第3日曜日(年間延べ3,000人来客)に開催している。	地域振興・教育課
	よのうづ海ん衆まんぷく市事業	8月と12月によのうづ「海ん衆」まんぷく市を開催した。多くの来場者があり、地産地消、食育の推進、特産品の宣伝、消費拡大、地場産業の振興を図ることができた。○22年度は8月と12月に2回まんぷく市(延べ来客数500名)を開催	地域振興・教育課
	米水津特産品販売促進事業	関係機関や農業水産商工団体が一体となって水産加工品等を中心として、特産品のPR及び販路拡大に取り組んでいる。○海部の郷米水津会・年3会発送(会員116名)○郷土物産展参加 ○学校給食へ養殖ブリの提供や水産加工品を提供し、地産地消の推進を図る。	地域振興・教育課
	米水津おさかなまつり	特産品の宣伝や消費拡大、地場産業の振興を図っている。○21年度は13,000人の入場があった。	地域振興・教育課
	元越山登山道環境整備事業(パワーアップ事業)	○22年度は4月と11月の2回(参加者延べ450人)登山会を実施した。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	特産品の宣伝、消費拡大、地場産業の振興を図ることができた。	

○評価欄2

(2) 自然環境の保全と生活環境の整備	ア 豊かな自然を生かし、美しい地域づくりをめざします。		
	イ 合併浄化槽の設置を推進し、海の水質保全を図ります。		
	ウ 第2浦代トンネル開設を要望し、年々増大する交通量や大型貨物の通行及び通学路を確保し、安全性と利便性を図ります。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	米水津活性化事業(パワーアップ事業)	地域を活性化するために相互協力の精神をもって地域活動、社会福祉活動、環境保全活動など市民としてできる各種地域づくり活動を行う団体を育成することができた。 ○各種地域づくりに22年度は延べ473人が参加した。	地域振興・教育課
	魅力あるよのうづ開発事業(パワーアップ事業)	「花いっぱい運動」等の美化運動を支援する事により、地域住民に啓発と公園等の環境改善をおこなうことができた。さらに空の公園展望所、芝桜花壇の整備をおこなうことができた。○公園の整備 ○芝桜花壇の整備	地域振興・教育課
	市町村設置型合併処理浄化槽設置事業	米水津地区は、合併処理浄化槽の設置から、その後の維持管理まで佐伯市が主体となつて行う「市町村設置型」で実施している。 ○21年度は15基 ○22年度は8基設置した。	生活排水対策課
	第2浦代トンネル期成会	米水津と佐伯市を結ぶ幹線路線である県道色宮港木立線の浦代峠に計画している「第2浦代トンネル」は、災害時のライフラインとして絶対かくことができない重要な整備計画として位置付けており、毎年県などに要望を続けている。○22年度は大分県知事へ陳情した。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	活性化事業により地域づくりができ、合併浄化槽の整備により海の水質保全が図られた。第2浦代トンネル建設については米水津地区建設促進期成会が県への陳情等をおこなった。今後も継続して県への要望活動を行っていく。	

○評価欄 3

(3) 健康で安心して暮らせる地域づくり	ア 急傾斜事業や砂防事業等実施し、災害に強い地域づくりをめざします。		
	イ 緊急時の連絡、避難体制等を確立します。		
	ウ 国保診療所を中心とした地域医療の確保と、高齢者が生きがいをもって暮らせる施策の展開を図ります。		
	エ 少子化対策、子育て支援、就労機会確保のため、幼保一元化の認定こども園の実施に努めます。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	急傾斜事業及び砂防事業等について	今のところ、急傾斜事業及び砂防事業としての対象地区はないが、市及び防災関係機関が毎年、6月上旬頃実施する防災パトロールにおいて危険と思われる箇所での現地調査を行っている。また、25年度には米水津地区の5箇所（よのうづ幼稚園、米水津高齢者生活福祉センターほか3箇所）について、大分県が実施する土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の基礎調査を実施する予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県 ・建設課 ・防災危機管理課 ・市民サービス課
	緊急時の連絡、及び避難体制等について	振興局における緊急時の連絡体制については、マニュアルを下に振興局職員はもちろんのこと、防災危機管理課をはじめ防災関係機関とのスムーズな連携を心掛けている。特に米水津地区は東南海・南海地震の津波による避難対策を最重要課題としているため、以前から各地区に避難路・避難地を設定し、毎年避難訓練を米水津地区全体で行っている。23年度は3月11に発生した東日本大震災による津波被害を想定し、米水津地区も避難路・避難地の見直しを行うとともに、地区住民並びに要援護者の避難体制も合わせ早急に検討して行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民サービス課 ・地域振興教育課 ・防災危機管理課
地域医療の確保と高齢者の生きがい事業について	平成23年3月31日で米水津診療所の医師の派遣期限が切れるため、保険課が大分県（医療政策課）に対し医師の派遣を要望したところ医師不足のことから、今後、県内にある国保診療所に対し、医師を派遣することが難しい状況であると告げられる。地域医療を守る観点から、保険課が指定管理者制度により市内の医療機関に公募をかけたところ、平成23年度から佐伯中央病院が米水津診療所の指定管理者として診療を始めることとなった。また、米水津地区の高齢者の生きがい対策については、「笑いは健康の源」明るく楽しい学習を目標に、毎年健康に関する各種教室や講演会の開催、先進地の視察旅行などを計画。清掃活動やグランドゴルフなどを通じ、健康づくりのための生きがい対策として、年間の事業計画を立て支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・保険課 ・健康増進課 ・市民サービス課 ・生涯学習課 	

	幼保一元化の認定こども園実施について	合併前から米水津地区には保育園が設置されていないため、子育て支援として幼保一元化の「認定こども園」の設置が要望された。しかし認定こども園の実施については、施設・人員・保護者負担等の問題があり、実施できなかった。このため、幼稚園児を対象に午後2時から午後5時30までの預かり保育を平成20年2月から実施することとなった。利用状況は22年度では18名の園児が利用していたが、23年度が5名となっている。預かり保育は幼稚園児が対象のため、乳幼児を抱える家庭では地区外の保育所を利用している状況にある。今後は現行の幼稚園の預かり保育や児童クラブへの補助の継続を進めるなかで、当地域の未就学児の総合的な保育サービスのあり方を検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課 ・市民サービス課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	B：一部達成できる	米水津地区における健康で安心して暮らせる地域づくりについては、今後、危惧される東南海・南海地震による津波発生時の避難体制をはじめ様々な課題があるものの、特に今回は地域医療確保を確保する観点から、米水津診療所については佐伯中央病院が指定管理者となり、診療を開始することで地域医療を守ることができた。	

8 蒲江地域

○評価欄1

(1) 教育と文化活動の振興	ア 小学校の統廃合の取組を推進します。		
	イ 公民館活動を充実させ、健康スポーツ活動を推進します。		
	ウ 地域文化の継承と文化財の保存・活用を図り、芸術文化活動の振興に取り組めます。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	小学校の統廃合	尾浦小・波当津小・猪串小を統廃合。27年度を目処に残りの学校を統合予定。	教育総務課
	社会教育単独事業	地区公民館を拠点に、青少年を対象に「ふるさと探検隊」(年5回)・高齢者を対象に「高齢者教室」(年6回)・婦人を対象に「中央婦人学級」(年6回)を開催。高齢者教室、中央婦人学級においては、グラウンドゴルフ・ペタンク等の軽スポーツを年1回おこない健康づくり寄与した。	地域振興・教育課
	蒲江地区芸術文化振興事業	蒲江地区内の芸術文化の振興に努め、蒲江地域の方々に各種文化に触れる機会を作り、文化意識の高揚を図るため、「夏・春囲碁将棋大会」(年2回)、「美術展、諸流生花展」(年1回)、「芸能発表会」(年1回)、「文化の集い」(年1回)を開催。	地域振興・教育課
	蒲江地域パワーアップ事業	各地区に盆踊りの保存事業(盆踊りの記録)、文化伝統継承育成事業(獅子舞い、太鼓打ち、長刀打ち)の補助を行った。	地域振興・教育課

この項目 に対する 評価	評価	評価理由
	A:達成できる	各地区において統合説明会を開き PTA・蒲江住民も納得し了解を得られた。
		(イ) 幅広い年齢層を対象に事業をおこなうことにより、活発な公民館利用を図った。
		(ウー1) 囲碁将棋大会を通じて愛好者相互の技術の向上と親睦を図る事ができ、美術展・生花展、芸能発表会では、日頃から練習してきた成果、創作してきた作品を発表し文化の振興を図った。また、文化の集いでは各種文化人をお招きし講演をおこなっていただくことにより、文化意識の高揚を図った。
		(ウー2) 各種団体へ補助することにより、昔から伝わる伝統芸能を継承する一助となった。

○評価欄 2

(2) ま ちづくり の推進	ア 福祉の充実したまちづくりを推進します。		
	イ 医療体制の充実に取り組みます。		
	ウ 行政機能の集積による「安全・安心」なまちづくりを推進します。		
	エ 地域コミュニティ育成と住民活動を支援します。		
実施した 事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	さいきの茶の間	申請、実績報告の受付。開設時に指定書、のれん交付。平成20年度から事業開始。現在蒲江管内では6団体が開設している。	高齢者福祉課
	ころばん教室	平成18年度から実施。65歳以上にアンケートを実施し、その結果により日常生活に不安がある者で希望する者を対象に、12回開催。	高齢者福祉課
	出張診療	無医地区へのお出張診療	保険課
	局舎・消防署の建設	未整備	総務課
	地域緊急対策事業	予算の範囲内ではほぼ実施	総務課
	女性チャレンジ支援事業	女性の起業行為の取り組みに対する支援、ハバドーナツの調理から商品の搬入(助成金50万円)	企画課
この項目 に対する 評価	評価	評価理由	
	B:一部達成できる	高齢者が利用しやすいよう使用する施設の環境整備や運営費の補助がありまた、参加者の希望による自由な運営ができたため、高齢者が気軽に立ち寄れる場となっている。	
		参加者の希望によりタクシー等で送迎を行っている。開始前と終了後に身体測定や問診を実施し、指導する。	
		管内では4地域に大別されるが、医療機関のない名護屋地区に週1回のお出張診療を行っている。診療回数が増等ができれば住民の利便性が増す。	
		局舎・消防署は未整備及びその他の事業は予算が少なく住民要望の事業ができてない。	

○評価欄 3

(3) 産 業の振興	ア 海環境を守る人材を育成するとともに、生産の場である海の保全と海環境汚染の改善に取り組みます。		
	イ 農水産物の加工体制の充実と流通体制を確立し、販売体制の充実に取り組みます。		
	事業名 (事業内容)	事業量・実績	担当課
実施した 事業	漁場クリーンアップ 事業	蒲江管内 4 支店漁業後継者が毎年実施 (台風等襲来時には必要に応じてその都度実施)	水産課
	環境・生態系保全活 動支援事業	入津湾、蒲江支店及び名護屋支店の潜水漁業者が中心になって藻場の保全活動を実施 (H21~)	水産課
	底質改良剤散布補助 事業	上・下入津及び名護屋支店が行う底質改良剤の散布事業に対して毎年補助金を交付	水産課
	環境改善型複合養殖 実証事業	下入津支店青年部が平成 19~21 年度に取組んだ県の事業 (ヒロメ栽培による環境改善)	水産課
	養殖魚等の高度利用 加工事業	平成 17 年、地域特産品に付加価値をつけようと漁業を営む若手漁師 10 名が共同出資により (株) かまえ直送活き粋船団を立ち上げ、国の中核的漁業者協業体等取組支援事業及び県の地域活性化総合補助金を活用し、加工施設を整備した。以来、県内外のイベントに積極的に参加し、加工品の販路拡大に取り組んでいる。	地域振 興・教育 課
	花き団地 (強い農業 づくり交付金・経営 構造対策事業)	産地の強化、流通 (販路拡大) を目的として第 2 花き団地 (丸市尾) を建設。 (H18~21)	農政課
	県単補助事業	花きの施設整備及びいちごの施設付帯設備を導入。蒲江出荷協議会 (会員数 128 名) 内の出荷者を中心に野菜栽培講習会を実施。 (H17~22)	農政課
この項目 に対する 評価	評価	評価理由	
	A : 目標達成できる	農林水産業を取り巻く現状は、従事者の高齢化にともなう後継者問題、輸入農水産物の増加など厳しい現状にありますが事業を通じて組合員の所得や生活水準の向上、雇用の創出等に取り組んでいる。	

○評価欄 4

(4) 地域間の連携・交流	ア 情報発信・地域間連携・地域間交流施設の整備に取り組みます。		
	イ 観光・レクリエーション産業を振興するとともに、あわせて観光施設の整備充実に取り組みます。		
	ウ ブルートゥリズムを推進し、交流人口の増加に取り組みます。		
実施した事業	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
	深島サンゴ保全事業	毎年10月ごろ、深島のサンゴを保全するため、サンゴ食巻貝を約2000個体ほど駆除している。	地域振興・教育課
	元猿海岸清掃活動	毎年海開き前の6月に、海水浴客が気持ちよく利用できるように、行政、観光協会、商工会、地域住民等と一緒に元猿海岸の清掃活動をしている。	地域振興・教育課
	元猿海水浴場管理委託業務	毎年7月から8月の間、海水浴客等が気持ちよく利用してもらえるように、元猿海水浴場一帯のシャワーやトイレ等の清掃管理をお願いしている。	地域振興・教育課
	たかひら展望公園のじぎく再植栽事業	たかひら展望公園内ののじぎくを再生する事業で、指定管理者を中心に、行政、住民、地域づくり団体が共同で進めている事業。種取り、種まき、挿し木、雑草取り、水やり、シカの食害対策等を随時行っている。	地域振興・教育課
	あまべ渡世大学事業	NPO法人かまえブルートゥリズム研究会が主体となって、蒲江地域の生業を活かした体験型観光を推進しており、観光協会、行政もPR・企画等を一体となって行っている。(H18～)	地域振興・教育課
	お食事処・宿泊処マップ作製	観光協会蒲江支部会員のうち、お食事処、宿泊処のマップ作成を行った。(H20)	地域振興・教育課
	観光PR掲示板の作成	道の駅かまえに観光PR掲示板を作成した。(H21)	地域振興・教育課
	YORANNA!かまえPR事業	観光客のリピーターを増やすために、緊急雇用対策事業を活用し、道の駅かまえにおいて観光案内人を設置し、心のこもった案内をしている。(H22～H23)	地域振興・教育課
	東九州伊勢えび海道事業	大分県佐伯市と宮崎県延岡市が伊勢エビ漁の解禁となる9月から11月の3ヶ月間、共同で開催するイベントで、平成23年度で8年目となる。3ヶ月間で約1万2千食の伊勢エビ料理が食され、約1億1千万円の経済効果がある。	地域振興・教育課
日豊海岸豊後どんぶり街道事業	臼杵市、津久見市、佐伯市の観光協会が共同で、平成20年の佐伯IC供用開始から始めたイベントで、これまでに7万4千食のどんぶり料理が食され、直接売り上げで1億6千万円弱の経済効果がある。	地域振興・教育課	

	南部地域ちえのわ会議	大分県、佐伯市が主催し、地域住民とのワークショップ等をとおして、地域の課題解決を図り、地域活性化を図ることを目的として開催する会議で不定期で開催されている。(H21～)	地域振興・教育課
	日本風景街道事業	国交省、大分県、宮崎県、佐伯市、延岡市、民間等のパートナーシップで、道路を通して地域づくりを実践していく事業である。大分県サイドでは平成22年から、国交省、大分県、佐伯市の行政連絡会を月に1回程度開催し、情報の共有を図っている。民間は清掃活動、花いっぱい運動等を各地域で随時展開している。(H18～)	地域振興・教育課
	名護屋地域海上釣り堀等地域活性化新戦略事業	平成22年度末に名護屋地区に民間が東九州初の海上釣り堀を大分県の補助を活用しオープンした。佐伯市からは国のふるさと雇用再生特別交付金を活用し、PRを委託している。(H23)	地域振興・教育課
	各種イベントの開催	大分県マリンカルチャーセンターや道の駅かまえ、たかひら展望公園等が開催するイベントの企画や補助、PR等を毎年行っている。	地域振興・教育課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	東九州自動車道佐伯ICの供用開始にむけ、平成17年3月の合併以降、観光行政、観光協会は共同で、地域の豊かな食資源に注力し、食観光の推進を図ってきた。佐伯市はそれまで、寿司や海鮮で県外からも少しはお客様が訪れていたが、佐伯ICの開通以降、上記の取り組みにより多くの観光客が来客している。その一方で、これまでに経験したことがない観光客の来客により、接遇等のおもてなしや観光案内・標識などにまだまだ多くの課題があることわかってきた。今後はこれまでの事業のブラッシュアップをするとともに、観光客にわかりやすい情報発信、案内標識の整備を行っていく必要がある。	

○評価欄5

(5) 生活環境の整備	ア 花いっぱい運動の推進と各種公園の整備に取り組みます。		
	イ 情報通信施設とその体制の整備に取り組みます。		
	事業名(事業内容)	事業量・実績	担当課
実施した事業	蒲江花いっぱい運動事業	管内全域で毎年6,000～12,000本の花苗を配布・植栽した。	地域振興・教育課
	屋形島交流基盤施設整備事業	当該施設を設置したことで、交流客を受け入れる体制が整い、交流客の増加による地域活性化と島の環境保全の意識向上が図られた。(H20完了)	地域振興・教育課
	防災情報システム整備工事	平成23年度に老朽化した防災無線をデジタル化に整備	防災危機管理課
この項目に対する評価	評価	評価理由	
	A:達成できる	花作りをとおして、地域の繋がりや人づくり、また環境美化への意識向上に効果があった。	